

様式 1 令和3年度 清瀬市立清瀬中学校 学校評価計画

学校の教育目標 <small>人間尊重を基本理念に国際的視野にたち平和を愛する社会人の形成をめざして、正しい判断力と粘り強い実践力をもった生徒を育てる ・健全な身体と豊かな情操をもった生徒を育てる ・高い知性とたくましい創造力をもった生徒を育てる</small>	育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動 本校の教育目標に基づき、全中学校教育を通じて中等教育卒業段階における社会人基礎力の育成を目指すという視点から、育成を目指す資質・能力を「前に踏み出す力」、「チームで働く力」、「考え抜く力」、「社会人基礎力」、経済産業省)とし、あらゆる教育活動を通じて育成を図る。また、特別支援学級設置校であることから、インクルーシブ教育の推進を本校の特色ある教育とし、各教科の授業や学校行事、給食、部活動などにおける、特別支援学級と通常学級の生徒との交流及び共同学習を中心的な内容とする。そのために通常学級と特別支援学級の合同学年会をはじめ、体育行事及び文化行事の各委員会において交流及び共同学習を企画し運営する。
目指す学校像（ビジョン） 【目指す学校像】 ○生徒にとって楽しく行きがいのある学校 ○保護者にとって親しみがあり、地域に根ざした学校 ○教職員にとって自己研鑽に励み、協力して進める学校 【目指す児童・生徒像】 ○正しい判断力と粘り強い実践力をもった生徒 ○健全な身体と豊かな情操をもった生徒 ○高い知性とたくましい創造力をもった生徒 【目指す教師像】 ○常に生徒のことを第一に考える教師 ○生徒のためという同一の視点に立って協力的、体罰を許さぬ教師 ○自己研鑽に励み授業改善に取り組む教師	

前年度までの学校経営上の成果と課題

育成を目指す資質・能力を「前に踏み出す力」「チームで働く力」「考え抜く力」として学校の運営を行っている。前年度はコロナ禍のため、運動会や修学旅行、職場体験やスキー移動教室などが中止となり、体験的な学習活動の機会に恵まれなかったが、PTAや学校支援本部の支援により音楽祭(合唱コンクール)を校内で開催することができた。今年度も保護者や地域との連携によって、生徒のいわゆる非認知能力を育成する機会を確保していくことが課題である。

柱	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標（評価基準）	成果指標（評価基準）
確かな学力の向上	・生徒一人一人に分かる喜びを味わわせながら学力の向上を図る。	・生徒に基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせるとともに知識・技能を活用させ、思考力・判断力・表現力等を育成する。	・上半期においては、教師がタブレット端末などのICT機器を活用した授業を行い、生徒の主体的な学習を促す。	4 具体的方策に係る指導の実施率90%以上	4 教員の自己評価で、肯定的評価90%以上
			・下半期においては、生徒がタブレット端末などのICT機器あるいは学校図書館を活用し、探究的な学習活動を行う。	3 具体的方策に係る指導の実施率80%以上90%未満 2 具体的方策に係る指導の実施率70%以上80%未満 1 具体的方策に係る指導の実施率70%未満	3 教員の自己評価で、肯定的評価70%以上 2 教員の自己評価で、肯定的評価50%以上 1 教員の自己評価で、肯定的評価50%未満
豊かな心の育成	・人権尊重の理念を正しく理解させ、自他の生命を尊重する心を育てる。	・体験的な学習活動を通して、自ら学び考える力や自己有用感を養わせるとともに、協力する態度、思いやりの心を育てる。	・運動会、音楽祭以外に、1年の移動教室等、2年の校外学習及び移動教室等、3年の修学旅行等の体験的な学習を交流学习として実施する。	4 具体的方策に係る指導の実施率90%以上 3 具体的方策に係る指導の実施率80%以上90%未満 2 具体的方策に係る指導の実施率70%以上80%未満 1 具体的方策に係る指導の実施率70%未満	4 教員の自己評価で、肯定的評価90%以上 3 教員の自己評価で、肯定的評価70%以上 2 教員の自己評価で、肯定的評価50%以上 1 教員の自己評価で、肯定的評価50%未満
			・体験学習のねらいを「前に踏み出す力」「チームで働く力」「考え抜く力」の育成に置き、生徒の非認知能力を育てる。	4 教員の自己評価で、肯定的評価90%以上 3 教員の自己評価で、肯定的評価70%以上 2 教員の自己評価で、肯定的評価50%以上 1 教員の自己評価で、肯定的評価50%未満	4 生徒の自己評価で、満足度90%以上 3 生徒の自己評価で、満足度80%以上90%未満 2 生徒の自己評価で、満足度70%以上80%未満 1 生徒の自己評価で、満足度70%未満
健やかな体の育成	・基本的な生活習慣、運動習慣を身に付けさせ、健康で活力あふれた身体の育成する。	・新型コロナウイルスへの対応を通して自らの心身の健康に対する意識の向上を図る。食育等の取組を通し、自ら学び考える力を養わせる。	・生徒の主体的な活動による、新型コロナウイルス感染拡大防止への対応を積極的に展開させる。	4 生徒による主体的なコロナ対応を年間3回以上実施 3 生徒による主体的なコロナ対応を年間2回実施 2 生徒による主体的なコロナ対応を年間1回実施 1 生徒による主体的なコロナ対応を実施せず	4 生徒の自己評価で、満足度90%以上 3 生徒の自己評価で、満足度80%以上90%未満 2 生徒の自己評価で、満足度70%以上80%未満 1 生徒の自己評価で、満足度70%未満
			・これまで栄養士が行ってきた、献立や食育に関する情報の収集と各学級への提示などを、生徒の活動として取り組ませる。	4 生徒による主体的な食育の取り組みを年間3回以上実施 3 生徒による主体的な食育の取り組みを年間2回実施 2 生徒による主体的な食育の取り組みを年間1回実施 1 生徒による主体的な食育の取り組みを実施せず	4 生徒の自己評価で、満足度90%以上 3 生徒の自己評価で、満足度80%以上90%未満 2 生徒の自己評価で、満足度70%以上80%未満 1 生徒の自己評価で、満足度70%未満
特別支援教育の充実	・インクルーシブ教育を推進する。	・専門家や外部機関との連携を深め、指導や支援を得ながら指導の工夫改善に取り組む。	・外部機関との連携を深め、生徒や保護者を公的な支援から孤立しないようにする。	4 専門家や外部機関との連携した取組を全学年で実施 3 専門家や外部機関との連携した取組を2つの学年で実施 2 専門家や外部機関との連携した取組を1つの学年で実施 1 専門家や外部機関との連携した取組を実施せず	4 生徒を取り巻く環境が改善した割合90%以上 3 生徒を取り巻く環境が改善した割合80%以上90%未満 2 生徒を取り巻く環境が改善した割合70%以上80%未満 1 生徒を取り巻く環境が改善した割合70%未満
			インクルーシブ教育の一環として、各教科及び行事、部活動等、様々な場面を利用して交流及び共同学習を行う。	4 教員の自己評価で、肯定的評価90%以上 3 教員の自己評価で、肯定的評価70%以上 2 教員の自己評価で、肯定的評価50%以上 1 教員の自己評価で、肯定的評価50%未満	4 生徒自身の状況が改善した割合90%以上 3 生徒自身の状況が改善した割合80%以上90%未満 2 生徒自身の状況が改善した割合70%以上80%未満 1 生徒自身の状況が改善した割合70%未満
本校の特色	・キャリア教育の推進を軸に、保護者や地域に開かれた学校を創造する。	・家庭や地域、関係諸機関と連携し、体験的な学習(コロナ対策で中止となった場合はその関連学習)を通した命の教育の充実を図る。	・学校行事や体験学習における保護者との協働を推進する。	4 保護者や地域と協働した活動を年間3回以上実施 3 保護者や地域と協働した活動を年間2回実施 2 保護者や地域と協働した活動を年間1回実施 1 保護者や地域が参画した行事を実施せず	4 「協働した」保護者の満足度90%以上 3 「協働した」保護者の満足度80%以上90%未満 2 「協働した」保護者の満足度70%以上80%未満 1 「協働した」保護者の満足度70%未満
			・PTAや学校支援本部が参画し、協働する取組を実施する。	4 保護者や地域が参画した行事を年間3回以上実施 3 保護者や地域が参画した行事を年間2回実施 2 保護者や地域が参画した行事を年間1回実施 1 保護者や地域が参画した行事を実施せず	4 保護者へのグループ・インタビューで、「極めて良好」(申し分なく達成)と評価 3 保護者へのグループ・インタビューで、「良好」(概ね達成した)と評価 2 保護者へのグループ・インタビューで、「もう一歩」(やや下回った)と評価 1 保護者へのグループ・インタビューで、「奮起を期待」(大きく下回った)と評価